

纏頭富者  
の家屋

纏頭回の富者の家屋は、煉瓦又は土瓦にて造られ、屋上は材木を横たへ、上に蘆葦等を布き、草泥を以て之を塗り、僅かの傾斜あるのみにて、殆んど平蓋なり。是れ降雨降雪少なき爲め、雪壓及雨漏の憂なきに因る。而して外面より見れば、二三の小さき方窓ありて、圍壁と共に泥堊を塗れば土色と更に擇ぶ無く、外見敢て揚らざるも、室内白堊の厚壁に、方形或は彈丸形の棚を穿ち、内に種々の物品を陳列し、壁間には書畫の扁額及軸物を掲げ。天井は小なる圓材を巧妙に組合せ、之に五彩の花模様、其他種々の彫刻を施し、低き床板の上には華麗の絨氈を敷き詰め、椅子、卓子を配列し、窓には玻璃を用ゆる等、甚だ精巧美麗なり。

通常人民  
の家屋

通常人民の家屋は大凡厚さ二、三尺の土墻を繞らし、上に白楊又は梧桐等の粗材を梁として横架す。屋上には蘆葦高粱稈等を布き、之に草泥を塗りて建築し、屋内は地上に直接毛氈を敷き、上に粗製の木床及卓子を据え、二三の土器若くは木器を陳列するを常とせり。室内は外面と同じく、草泥を塗り、方棚を穿ち、何等の裝飾を施さず、此の種族の家屋内外は他種族に比して稍、清潔なり。大抵家屋の周圍には、庭園の設け有りて、楊柳果樹等を植う。